

## 要旨

【目的】現在日本の助産師養成課程において行われている遺伝医療・遺伝看護に関する教育について、内容を明らかにする。

【方法】厚生労働省の医療関係職種養成施設情報に掲載されている助産師養成課程を有する教育施設のホームページおよび閲覧可能な最新のシラバスを対象とした。助産師養成課程の設置主体、医師養成課程および認定遺伝カウンセラー養成課程の有無などを基本データとして収集した。遺伝看護独立科目、臨床遺伝学独立科目、遺伝医療・遺伝看護に関する教育内容を含む科目それぞれについて履修指定、科目担当者の概要、講義内容等を詳細データとして収集した。遺伝医療・遺伝看護に関する教育内容を含む科目についてはキーワード設定、シラバス抽出、データ抽出という手順を行った。得られたデータの内容を分析し、大項目、中項目、小項目に分類した。

【結果】調査対象は全 211 の助産師養成課程中 155 課程 (73.5%)で、大学院 38 課程 (24.5%)、大学専攻科・別科 34 課程(21.9%)、大学 81 課程(52.3%)、短期大学専攻科 2 課程(1.3%)、養成所 0 課程(0%)であった。遺伝看護学独立科目を有していたのは 4 課程 (1.9%)であった。その内容は臨床遺伝学、遺伝医療における支援、出生前診断、先天異常という 4 つの大項目に分けられ、9 の中項目、12 の小項目が含まれていた。臨床遺伝学独立科目を有していたのは 27 課程(17.4%)であった。その内容は臨床遺伝学、遺伝医療における支援、出生前診断、着床前診断、先天異常、遺伝性腫瘍という 6 つの大項目に分けられ、19 の中項目、44 の小項目が含まれていた。遺伝医療・遺伝看護に関する教育は 153 課程(98.7%)にあった。その内容は臨床遺伝学、遺伝医療における支援、出生前診断、着床前診断、先天異常、女性の健康と遺伝、遺伝性腫瘍という 7 つの大項目に分けられ、24 の中項目、79 の小項目が含まれていた。

【結論】遺伝看護学独立科目には、ライフステージごとに看護を説明しているという特徴があった。臨床遺伝学独立科目の内容は、医学教育で行われている教育の内容と大きな差はなかった。遺伝医療・遺伝看護に関する教育は、課程によって実施されている内容や程度は多様であり、出生前診断の教育を実施していない課程もあった。妊娠・出産という遺伝と関係が深い現象に伴うケアを行う助産師の養成課程では、現在行われている教育内容に遺伝の視点を追加することで充実を図ることができると期待する。教育において臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、遺伝看護専門看護師と協働することも一案であると考ええる。